

# 将来の人口

富里の総人口は、平成22年（2010年）には56,500人になるものと想定します。

年齢別にみると、人口の少子・高齢化が進み、年少人口（0～14歳）の割合は平成12年の15.5%から平成22年には13.7%へと減少し、一方老年人口（65歳以上）の割合は平成12年の10.7%から平成22年には17.1%へと増加するものと予想されます。

人口の将来目標	基準年次	中間年次	目標年次
	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)
総人口	50,222人 (100.0%)	53,100人 (100.0%)	56,500人 (100.0%)
0～14歳	7,781人 (15.5%)	7,475人 (14.1%)	7,741人 (13.7%)
15～64歳	37,089人 (73.8%)	38,759人 (73.0%)	39,098人 (69.2%)
65歳以上	5,352人 (10.7%)	6,866人 (12.9%)	9,661人 (17.1%)
世帯数	17,204 世帯	20,000 世帯	23,000 世帯
一世帯あたり人員	2.92人	2.66人	2.46人

# 土地利用の将来

## 1.都市の骨格（核と軸）

(1) ふれあいとにぎわいの核をつくる

### ① ふれあい核

役場周辺の地域は、公共施設を積極的に整備しており、（仮称）富里生涯学習センターの整備も進めています。また、民間の医療機関などが進出し、人の集う核としての機能の集積が進んでいます。

このため今後は、この地域と密接する市街化区域に良好な住環境や都市機能の誘導を図っていくとともに、公共交通や幹線道路網の整備などを行い、人の集う「ふれあい核」として位置づけ、核としての機能強化を図っていきます。

### ② にぎわい核

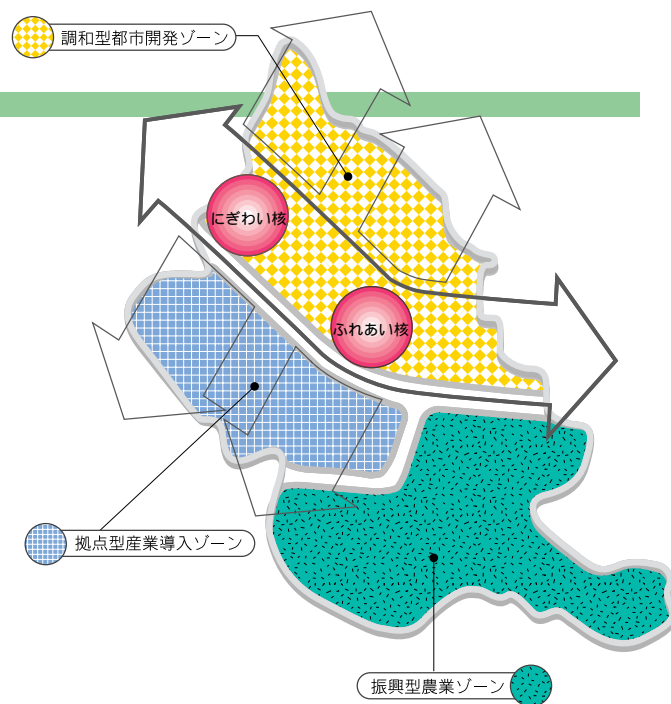
富里インターチェンジ周辺の地域は、主要な道路や公共交通機関が集中しており、成田空港を拠点とした業務核都市圏の一翼を担っています。

また、大規模な商業施設などの集積がみられる一方、公共施設を中心とした商業・流通・住宅等の複合開発を目指す土地区画整理事業が進められています。

このため今後は、広域的に人や物が集まる「富里の玄関」としての役割を果たす「にぎわい核」として位置づけ、核としての機能強化を図っていきます。

(2) 多様な魅力を結ぶ軸をつくる

「ふれあい核」と「にぎわい核」の結び付きを高めるとともに、多様な魅力を持つそれぞれの地域を結びつけ、都市としてのまとまりを高めていくための軸を形成します。



## 2.土地ゾーニング

- (1) 調和型都市開発ゾーン — 多様な都市機能の導入と良質な環境を有する住宅地の形成等、市街地整備を促進するゾーンとします。
- (2) 拠点型産業導入ゾーン — 緑や農業との調和を図りつつ、新たな産業の導入を図るゾーンとします。
- (3) 振興型農業ゾーン — 農業の振興や緑の保全を図るゾーンとします。